

日本測器（神戸市中央区）

航海計器の伝統



注目!!



世紀を超えた「測る」専門商社

「私たちの周りは測る行為にあふれている。計測はあらゆる産業に不可欠。そのニーズはどこにでもある」。日本測器（神戸市中央区）社長の明石仁成さん（66）が明快に語る。社名が示すように電子計測器や分析器の専門商社だ。圧力、温度、流量、液面、ガス検知…。電子分野でも波形表示や周波数分析、データ記録…。取引メーカーは実に3500社を超える。起業から113年、設立から95年。注目はミナト神戸が育んだ創業の物語だ。

□キャプテン野田

原点は野田啓太郎（1866～1935年）が1913（大正2）年に起こした野田測器調正所だ。野田は東京高等商船学校（現・東京海洋大）を卒業し、日本郵船に入社した。欧州航路の船長として活躍した後、神戸で航海計器の輸入に取り組んだ。社史「50年のあゆみ」（81年刊）によると野田は船長時代、「キ

設立95年、5年後の上場目指す

ヤプテン野田」として鳴らした。その人脈を生かし、（2005年刊）には同社創業に際して英ヘンリーヒューズ社、ケルビン社など有力メーカーの日本総代理店として直輸入を行ったという。野田測器は神戸の下山手通9丁目にあった。神戸船

具商組合「五十五年の歩み」（2005年刊）には同社輸入した戦前の名器類だらう。野田は後継者に恵まれなかったことから、納入先の日本漁網船具（現・ニチモウ）常務で高等商船の後輩でもあった城山保次郎に支援を依頼。31年、同社の全額出資で日本測器が設立され、事業一切が継承された。

日本漁網船具も神戸にゆかりがある。神戸にあった高津商店の創業者高津英馬

□好機到来

2018年に12代目社長に就任した明石さんは、社内報「好機到来」を創刊する。明石さんは言う。

「座石の銘は人間万事塞翁が馬。幸福や不幸はその瞬間だけでは決められない。目の前の仕事の意味を考え、仕事のやり方を変えつつ次代を切り開いていきたい」

商社の最前線となる営業拠点は国内26カ所に置く。海外市場の伸びを見越して中国（11カ所）、ベトナム（2カ所）、タイ（1カ所）と強化してきた。目指すは、5年後の設立100周年に合わせた新規株式公開（IPO）だ。明石さんは言う。

「座石の銘は人間万事塞翁が馬。幸福や不幸はその瞬間だけでは決められない。目の前の仕事の意味を考え、仕事のやり方を変えつつ次代を切り開いていきたい」

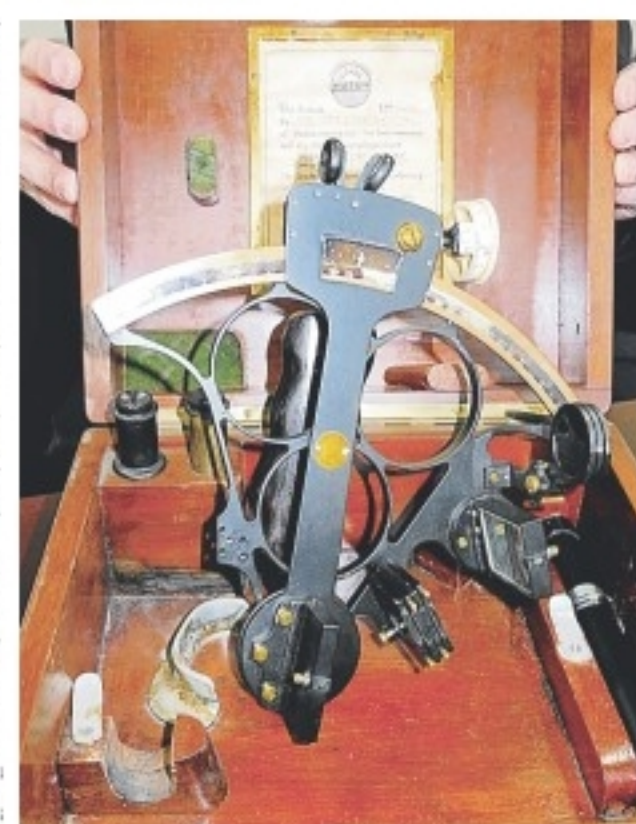
（特別編集委員・加藤正文）
◇随時掲載します。



「モノを測るという行為は永遠です」と話す日本測器の明石仁成社長。神戸市中央区磯辺通3

日本測器 計測器、計装システムの専門商社。1931（昭和6）年、前身の野田測器調正所の業務を継承し、日本漁網船具（現ニチモウ）の全額出資で設立。現在の出資比率は37%。年商175億円、経常利益5億4800万円（2025年3月期）。従業員230人。明石仁成社長は大阪電気通信大卒。1984年入社。2018年から社長。神戸市兵庫区出身。

日本測器が開催した「神戸先端計測展」。計測機器の最前線の製品が並ぶ。2025年11月、神戸市中央区（同社提供）



日本測器に保管されている六分儀。自船の緯度・経度を計測する。1937年製造とある＝神戸市中央区磯辺通3